

「第4回サイエンスカフェ」レポート

〔講演内容に【Q&A】と【注】を加え
修正・加筆して報告します〕

パラダイムとしての進化論の実態(4) —「恐竜化石の謎」と「放射年代測定の謎」—

- ◆恐竜化石から軟組織(血管)とその中のタンパク質とDNAが発見され、進化論ではその保存メカニズムを説明できること
- ◆恐竜を含め百万年以前と想定されている様々な生物の化石で、消滅したはずの放射性炭素C14が検出されていること

を示して、進化論を見極め、創造論を論証します。

- 【サイエンスカフェの目的とスタンス】
- 【前回までの復習と今回のポイント】
 - 1 恐竜化石で発見された軟組織の謎
 - 2 C14放射年代測定の謎
- 【結論】【次回以降の予告】

- 【補足1】化石の急速生成
- 【補足2】地層の急速形成
- 【補足3】C14年代の「ノアの洪水による激変モデル」
- 【補足4】地球と岩石の放射年代—等時線法の問題点
- 【Q&A1-3】、【注1-2】

【Q&A1】恐竜化石の軟組織に関する古生物学者の見解

【Q&A2】恐竜化石のC14年代を黙殺する理由

【Q&A3】木の化石の急速形成

【注1】等時線法(アイソクロン法)の原理

【注2】放射性元素の崩壊速度は変わる

サイエンスカフェの目的と講師の思い

科学の本質を明らかにしたパラダイム論に基づいて、進化論パラダイムと創造論パラダイムの実態を見極めて、

自然界、科学の世界、信仰の世界の奥深さを探求します。

私は、聖書に書かれている天地創造を信じています。
進化論の実態を知れば知るほど造化の妙に打たれ、創造論への確信が深められました。

サイエンスカフェのスタンス

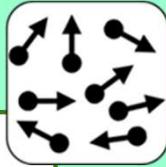
聖書談義は行わず、創造科学の詳細は公開資料に譲ります†。

そして、進化学者が無視できず、また一般にはほとんど知られていない進化論の内実を見極わめて創造論を論証します。

このようなスタンスを私は 見極わめ主義 と呼んでいます。

† 今回は、創造科学者(造語)が推進した研究プロジェクトの成果を紹介します。

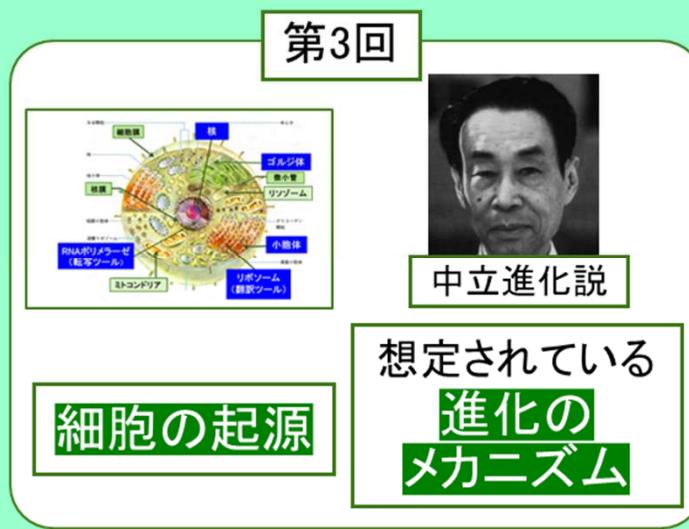
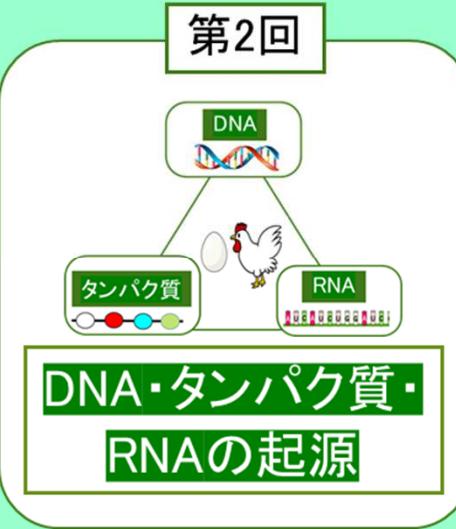
前回までの復習



進化論では、

生命と「生物の種」の起源を、原子・分子の振舞に基づいて説明すること

を目指していますが、



を説明できません。そして、進化論では、

目的なく無秩序に動く原子・分子には、目的を持って活動する生命を生み出す力が秘められていることを**作業仮説**として導入しています。

証明できないが、研究を進めるためにまず受け入れる**仮説**

進化論の内実(その1)

内部の実情

今回のポイント

進化論では

恐竜化石の中でタンパク質とDNAが
6千万年以上も保存されたことになり、
そのメカニズムを説明できません。

進化論の内実(その2)

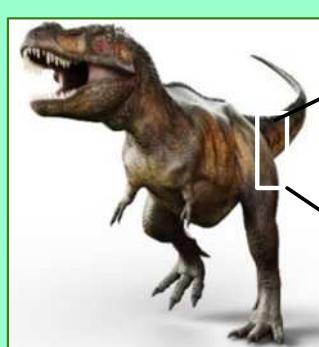
百万年以前と想定されている化石で、
消滅したはずの放射性炭素が検出され
ている矛盾を説明できないのです。

進化論の内実(その3)

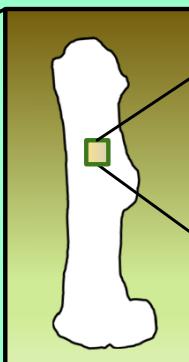
1 恐竜化石で発見された軟組織の謎



メアリー・シュバイツァー
古生物学者
ノースカロライナ州立大学教授



ティラノサウルス(6600万年以前)



大腿骨



伸縮する血管

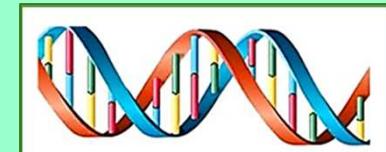
2005–2013年に数種類の恐竜の骨化石から取り出した軟組織から

細胞を発見し、赤血球とタンパク質を抽出し、

タンパク質を解析し、コラーゲンと判定し、

DNA が保存されている暫定的証拠を得ました。

軟らかな“肉”
のようなもの



進化論陣営からのバッシング

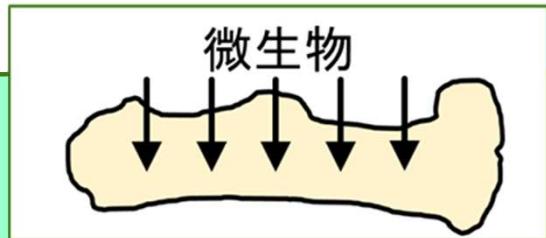
ところが当時、タンパク質やDNAなどの生体分子は
100万年程度で分解すると考えられていたので、

6千万年以前の恐竜化石の軟組織からこれらの
生体分子を発見したとするシュバイツァー教授の
報告は誤りであると批判され、
進化論に立つ学者からバッシングされました。

進化論陣営の反論—汚染物質説

進化論に立つ古生物学者は実験を行い、
タンパク質は約3万年、DNAは約1万年で崩壊することを示し、

それゆえ、恐竜化石の軟組織は偽物、骨の外部から
侵入した汚染物質、すなわち 微生物の集合体である
と主張しました。



創造論陣営の再反論

創造科学者は 研究プロジェクト
恐竜の完全無欠な『骨の軟組織』
に関する研究(iDINO)を推進して、

汚染物質説が誤りであること
を報告しました(2015年)

“Echoes of the Jurassic” Kevin
Anderson, CRS Books (2017), p. 30–39.



https://www.creationresearch.org/crsq-2015-volume-51-number-4_the-idino-project

進化論陣営の現状

進化論を支持する科学者は、汚染物質説を立証するために新たに実験を行いましたが、期待した結果が得られなかつたので、方向転換して、

恐竜化石の中でタンパク質とDNAが長期間保存されたメカニズムを検討しましたが、**保存のメカニズムを提起できず**現在に至っています。

【Q & A1】37頁

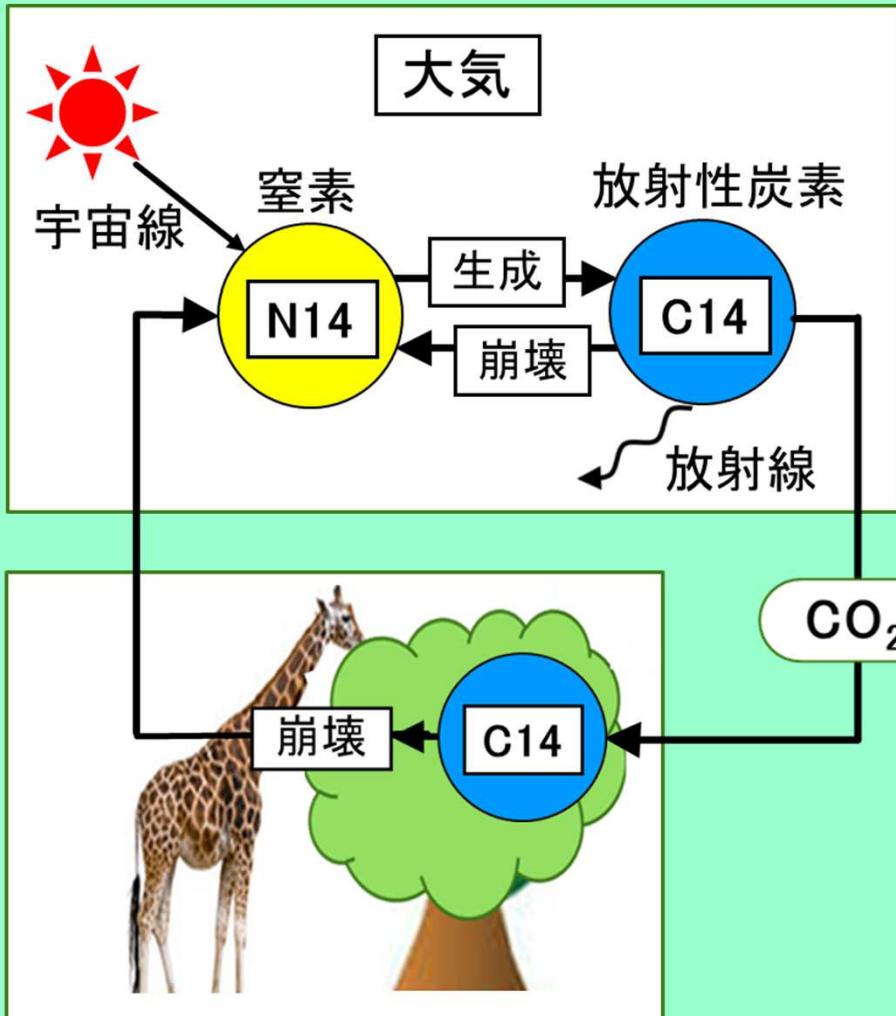
進化論によれば、恐竜化石の軟組織中でタンパク質とDNAが**数千万年以上保存されたことになりますが、保存のメカニズムを説明できないのです。**

進化論の内実(その2)

2 C14放射年代測定の謎

C14放射年代測定法の原理(概要)

詳細は30-31頁



- ◆大気中では、太陽の宇宙線が窒素N14に衝突して放射性炭素C14 †を生成し、
- ◆生成されたC14は崩壊して元のN14に戻るので、

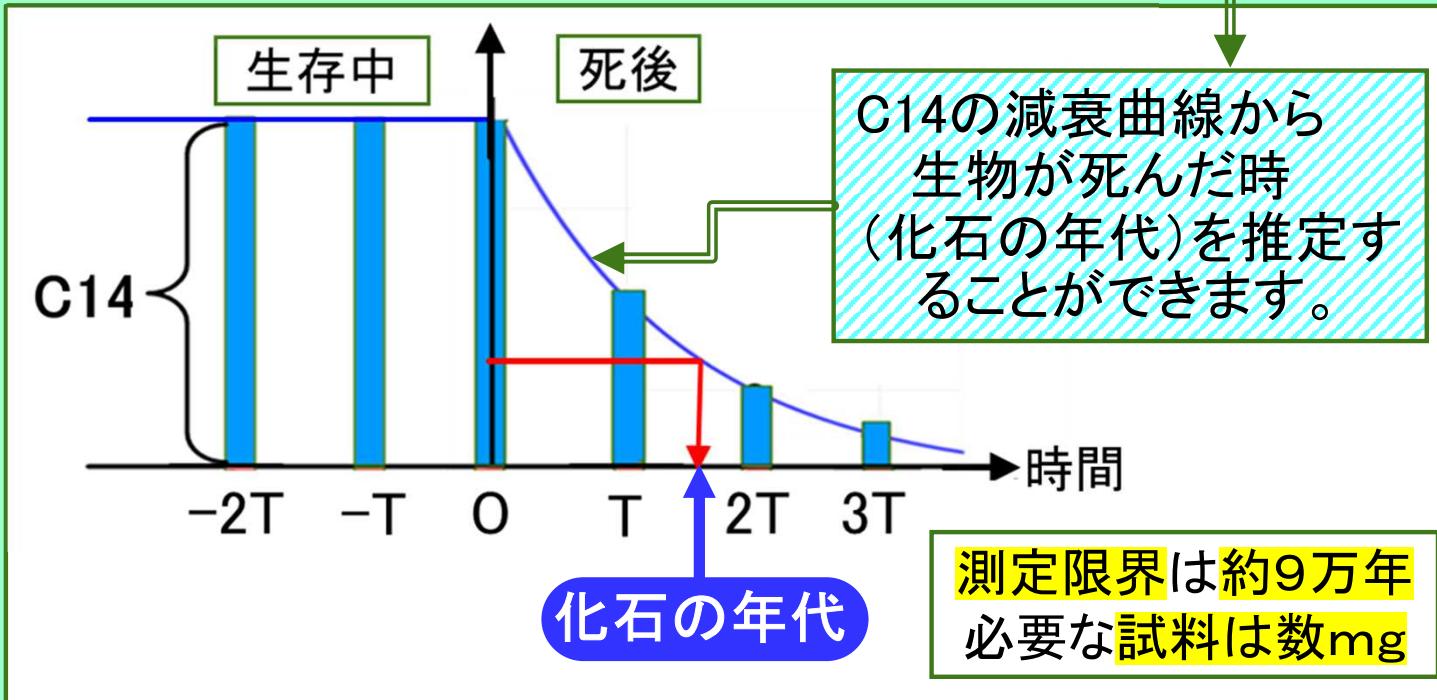
大気中にC14が一定濃度*で存在します。

- ◆C14は酸素と反応して CO_2 になり、植物(その後動物)に取り込まれ、
- ◆生物に取り込まれたC14は崩壊してN14に戻るので、

生物の体内にC14が大気中と同じ一定濃度*で存在します。

† C14は崩壊するとき放射線を出すので放射性炭素と呼ばれるのです。
* 生成(取り込み)と崩壊がバランスしたところで濃度が一定になります。

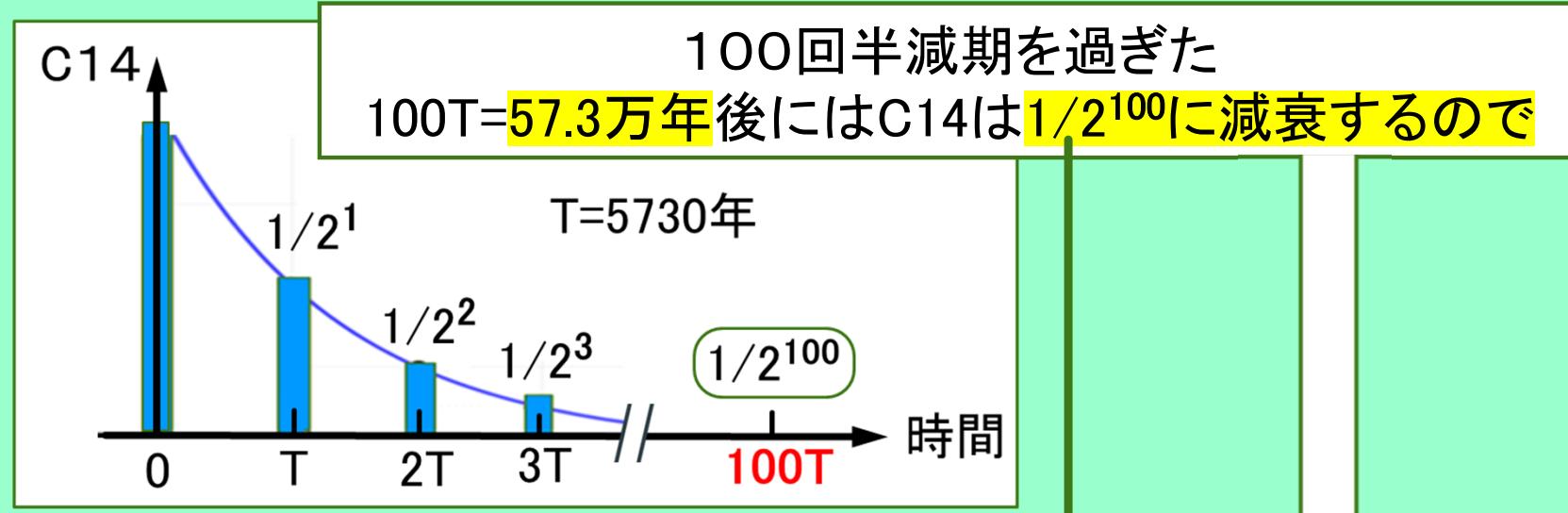
- ◆生物は死ぬとC14を取り入れなくなるので、生体内のC14は崩壊するだけになるため濃度が減衰します。
- ◆崩壊速度は一定で、**半減期**と呼ばれるT=5730年ごとにC14の濃度は半分に減衰するので



ただし、

- ◆大気の初期状態が現在と同じであった(31頁)
- ◆崩壊速度が常に一定であった(43頁)
- ◆汚染物質の影響がなかった(13頁)

などの条件が満たされている場合に限ります。



1トンの100%C14試料
 4.3×10^{28} 個のC14

$$4.3 \times 10^{28} \times 1/2^{100} = 0.03\text{個}$$

仮に100%C14からなる1トンの試料が存在しても57.3万年後にはC14は完全に消滅しています。

ところが、進化論で 100万年～数億年前と想定されている化石
(石炭、石油、天然ガス、古代の人類を含む)について、

- ◆ 消滅したはずのC14が検出され、
- ◆ 約2～5万年の炭素14年代が得られた

15頁参照

データが多数、20世紀に専門誌に報告されていました。

進化論陣営の主張ー放射性汚染物質説

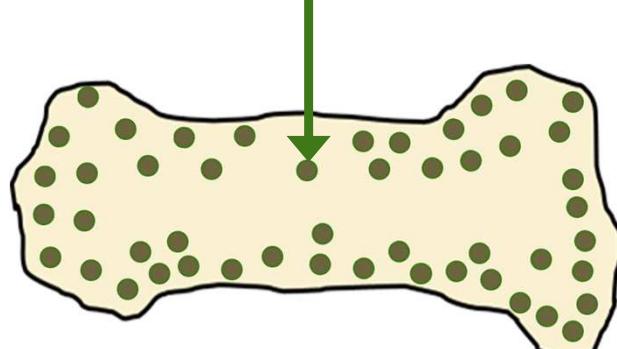
この矛盾に対して進化論に立つ古生物学者は

消滅したはずのC14が検出された
のは放射性の汚染物質による

と主張し、次の二つの説を提起しました。

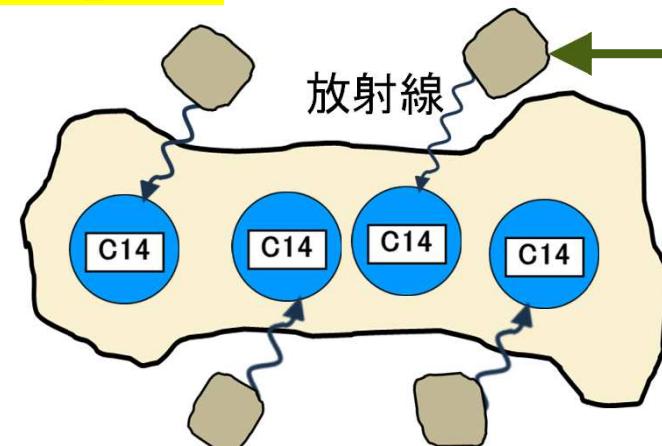
C14を含有する汚染物質侵入説

C14を含む汚染物質
が外部から化石内に侵入した



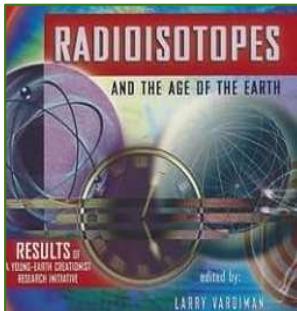
放射性物質によるC14生成説

ウランなど
放射性元素を含む汚染物質
が発する放射線が化石の内部に
C14を生成した



創造論陣営の反論

これに対して創造科学者はiDINOプロジェクトに加えて



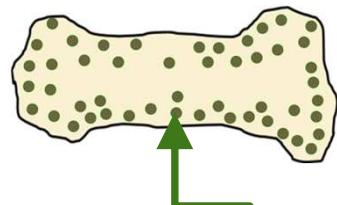
研究プロジェクト
「放射性同位体と
地球の年齢」(RATE)
1997–2005年

<https://www.icr.org/rate2>

を推進し

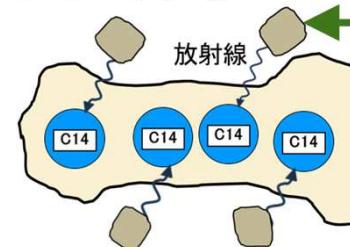
厳密なC14測定と観測を行って、放射性汚染物質説を論駁（誤りを示）しました。

- ◆ C14年代の測定値が化石の表面からの深さおよび発掘された場所に依存しないことを明らかにして†
- ◆ C14を含有する汚染物質侵入説を論駁するとともに



† 侵入したC14汚染物質の濃度は、化石表面からの深さが増すと減衰し、化石が出土した場所に依存するはずであるのに、そうでないことを示したのです。

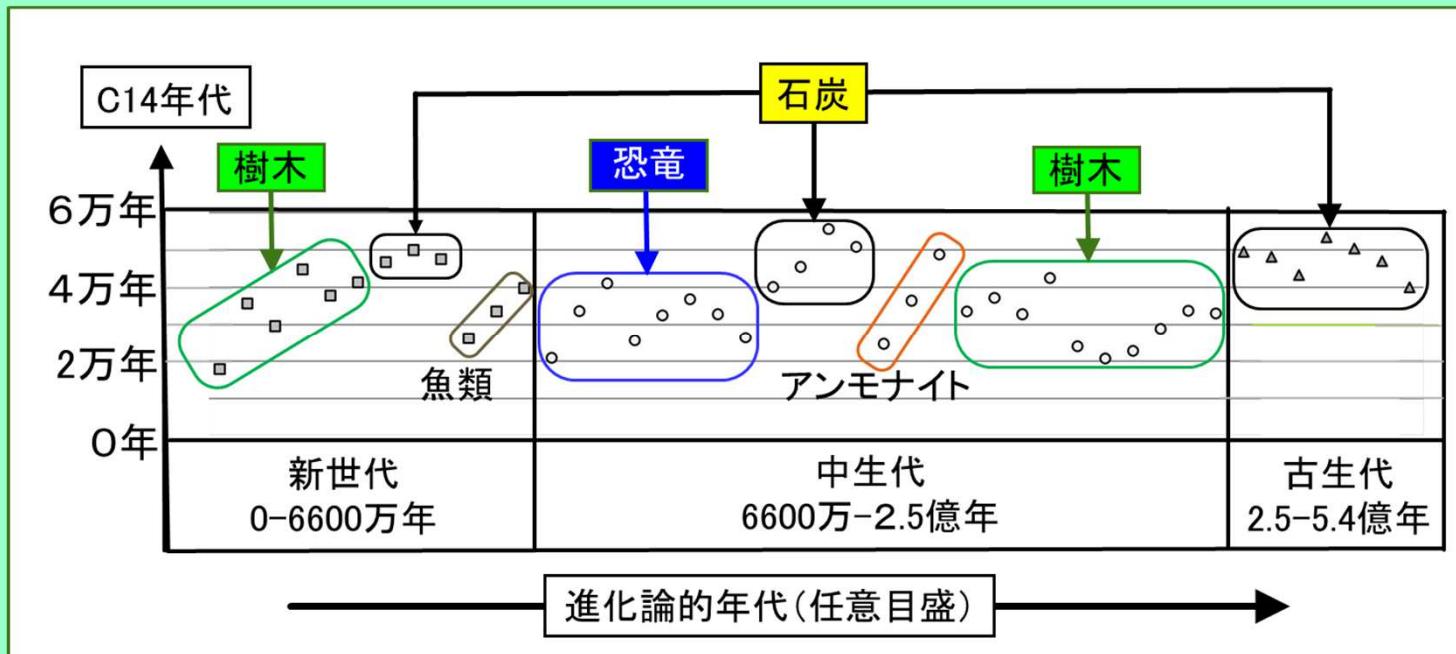
- ◆ 測定した化石のそばにウランなどの放射性物質が存在しないことを明らかにして
- ◆ 放射性物質によるC14生成説を論駁したのです。



<https://www.icr.org/rate2> (Chapter 8, Page 590)

創造科学者は両プロジェクトでC14測定および文献調査を行って、

1千万年～5億年前と想定されている様々な化石で約2～5万年のC14年代が得られていることを明らかにしました。



<https://www.icr.org/content/radiocarbon-dinosaur-and-other-fossils> (Fig.6を改変)

また、創造科学者はRATEプロジェクトで、



10億年～30億年前に誕生したと想定されているダイヤモンドを測定して5000年以内のC14年代を得ています。

<https://www.icr.org/rate2>
(Chapter 8, Page 609)

創造論陣営の現状

さらに創造科学者は RATEおよびiDINOプロジェクトで、
進化論では6千万年以前(したがってC14が消滅している
はず)の恐竜化石に2~5万年のC14年代を得るとともに

理論的研究を行い、

- ◆ノアの洪水による激変モデルを提起し、
- ◆2~5万年のC14年代を「若い地球説」で想定されている
6千年以内に収める説明を与えています。

【補足3】32頁

<https://www.icr.org/rate2>
(Chapter 8, Page 616)

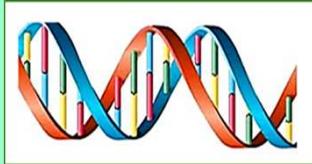
進化論陣営の現状

これに対して、進化論に立つ科学者は

恐竜その他の化石で消滅したはずのC14が与えている
C14年代を説明できず黙殺している。

進化論の内実(その3)

のが現状です



◆進化論では、原子・分子には生命と「生物の種」を生み出す力が秘められていることを証明できないけれども作業仮説として導入して研究しています。しかし、生命と種の起源を説明できません。

進化論の内実(その1)

◆進化論では、恐竜化石の中でタンパク質とDNAが6千万年以上保存されたことになり、そのメカニズムを説明できないのです。

進化論の内実(その2)

◆100万年～数億年前の化石で消滅したはずのC14が検出され約2～5万年のC14年代が得られています。

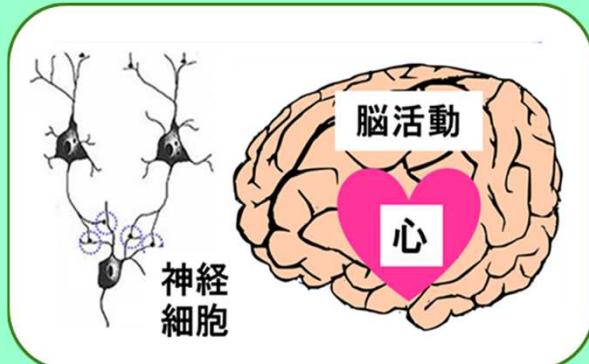
創造論陣営はノアの洪水による激変モデルを提起して説明しています。

進化論陣営は黙殺しています。

進化論の内実(その3)

第5回の予定

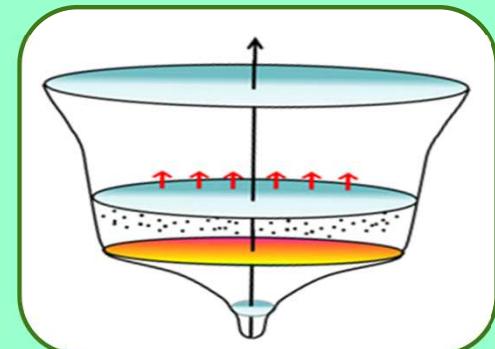
脳科学（心と脳）の謎とAI（仮）



◆AIは心を持つことができるか？
◆脳で心が生まれるメカニズムを解明できるか？
AIの進歩によってさらに明るみに出た
脳とAIの違いから創造論を論証します。

第6回の予定

ビッグバン説の謎と宇宙のファインチューニング（仮）



宇宙と時間が**“無”**から生じたと仮定する
ビッグバン説が抱える深刻な**未解決問題**
(謎)から創造論を論証します。

「と宇宙のファインチューニング」

【補足1】化石の急速生成

化石の急速形成を示すコンクリーション

コンクリーションとは
化石を内包する岩石(天然のコンクリート)です。

近年コンクリーションに関する研究が世界中で活発に行われています。

約5千万年前のクジラ
の頭の化石を内包する
球状のコンクリーション

[https://natgeo.nikkeibp.co.jp/
atcl/news/24/062800352/](https://natgeo.nikkeibp.co.jp/atcl/news/24/062800352/)



2018年に名古屋大学の吉田栄一教授らの研究グループは、

メートル大の球状のコンクリーションが数か月～数年で
形成されることを実験と理論で示しました。

生物の体内から溶け出た炭素成分が海水のカルシウム
成分と結合し、生物が化石化され石灰岩で覆われます。

化石が数万年以上かけて作られるとされていた
従来の見解を覆したのです。

吉田教授のコンクリーションに関する特別授業(中学生対象)が
<https://www.youtube.com/watch?v=F48tBP3dDhQ> で公開されています

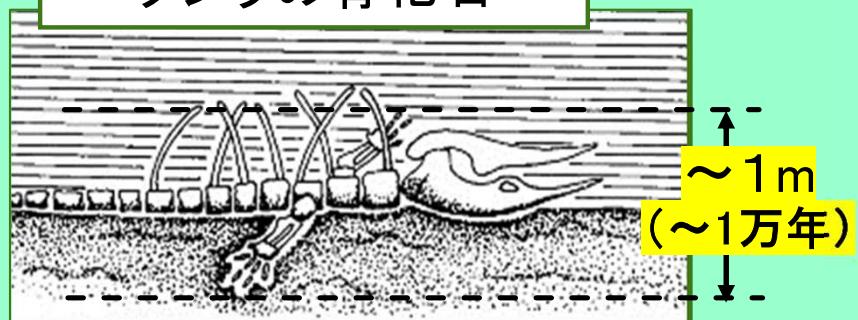
珪藻土中の動物化石

珪藻土とは
珪藻
0.2mm以下の
微生物

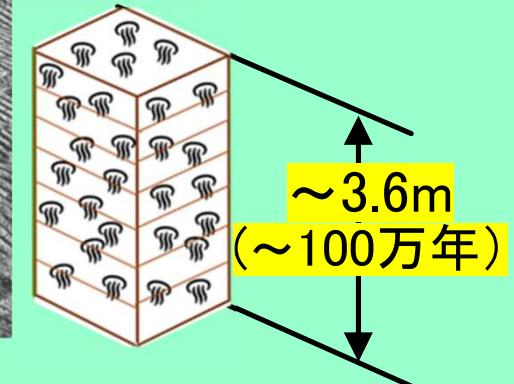
珪藻土とは 0.2mm以下の微生物が水中で堆積してできた砂岩です。

厚さ約1mの珪藻土層に埋まっているクジラの骨化石および厚さ3.6mで
7層の珪藻土を貫いているクラゲの群れの化石が発見されています。

クジラの骨化石



クラゲの群れの化石



進化論に立つ地質学では、珪藻土の現在の堆積速度から推定して、

これらの化石が埋まっている珪藻土の層は、およそ
1万年および100万年で堆積したと想定されています。

<https://kgov.com/list-of-the-kinds-of-polystrate-fossils>

斎一説に立つ進化論的・地質学の矛盾

水中で動物の死骸は捕食動物と微生物に食べられて数週間で消滅し

クラゲは死ぬと1日で水に溶けて消滅する

ことが観測されているので、これらの化石が1万年以上かけて形成されたとする進化論者の主張は観測事実と矛盾しています。

進化論に立脚した地質学では、

自然界で起きるメカニズムは今も昔も変わらないとする考え

作業仮説

斎一説に基づいて現在の珪藻の堆積速度から珪藻土が堆積した時間(動物が化石した時間)を推定するのでこのような矛盾を生じるのです。

斎一説に立つ進化論的・地質学では 進化論の内実(その4)
化石の形成メカニズムを説明できません。

激変説に立つ創造論的・地質学の説明

ノアの洪水で起きた大激変によって化石が急速に形成されたと説明します。

斎一説に立つ地質学者も認めている激変説

英国の著名な地質学者のデレク・アガー(スワンジー大学名誉教授)は、厳格な斎一論者で創造論者を軽蔑していましたが、激変説を認めています。

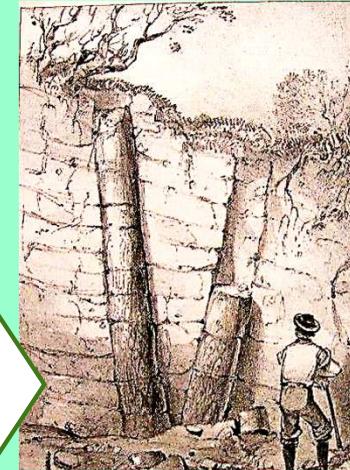


デレク・アガー



1833年にスワンジー
渓谷で砂岩から発掘され
スワンジー博物館の庭に
置かれている木の化石

1993年にアガーが
自著で描いたスケッチ



アガーは自著で、斎一説に基づいてスワンジー渓谷の砂岩が
1mあたり1万年の速度で堆積したと見積もり、発掘された
木の化石について、次のように述べています。

高さ10mの木が10万年もかけて化石化したことになり馬鹿げている。
砂が急速に堆積して化石を作った激変の期間と、砂がゆっくりと堆積した
斎一の期間があり、スワンジーの木の化石は激変期に形成されたと結論
せざるを得ない。 *The New Catastrophism* (新・激変説) Cambridge Univ .Press (1993) p.49

ただし彼は、ノアの洪水に基づく激変説と区別
するために自説を新・激変説と呼んだのです。

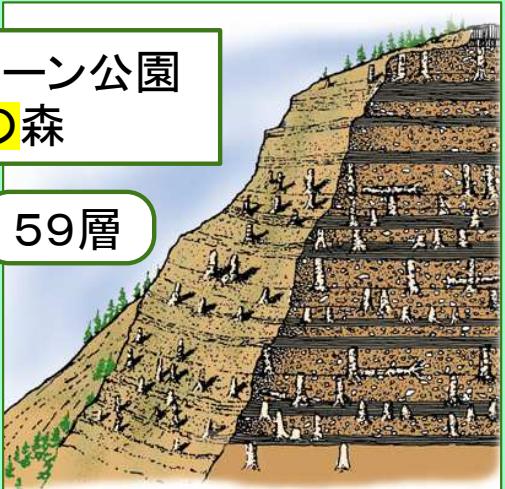
【補足2】地層の急速形成

イエローストーン公園の化石の森

火山の噴火による激変で地層と化石が急速形成されることが、米国
のイエローストーン公園の化石の森に関する研究によって明らかにされています。

イエローストーン公園
化石の森

59層



講師撮影1985年



化石の森では、直立した木の化石が埋められている地層が
59層も積み重なっています。このため

火山が噴火するたびに樹木が火山灰に埋もれ、これを
59回繰り返すことによって数百万年かかって作られた。

と考えられていました。したがって、化石の森の掲示板に

この場所には数百万年の地球の歴史が見られる。

と書かれていました。

このような説が、日本の創造論団体、ジェネシスジャパンの副会長の山本哲也先生をはじめとする創造科学者および進化論を支持する地質学者によって覆されました。

山本先生は、化石の森で化石化した木の種類や分布を研究して、樹木が洪水で運ばれてきたことを示しました。



山本哲也先生

講師撮影1978年

- ◆1980年にセントヘレンズ山の噴火で地層が急激に形成されたことに触発され
- ◆創造論のみならず進化論に立つ地質学者が従来の説を覆したのです。



その結果、掲示板が書き直され、1985年に発行された公園の公式ガイドブックに、

ごく最近 提唱された説では、樹木は火山の噴火による土石流によって根こそぎにされ、低地へ運ばれたと考えられている。1980年に起きたセント・ヘレンズ山の噴火が、この仮説を支持する証拠となつた。

と書かれました。

https://www.nps.gov/yell/planyourvisit/upload/232dhspecimen2015.pdf?utm_source=chatgpt.com

セントヘレンズ山の爆発的大噴火

1980年代初頭に米国の大噴火は3回の大噴火を起こし、**リトル・グランドキャニオン**と呼ばれる3段の峡谷を形成しました。



その結果

③1982年3月

②1980年6月の噴火で火山灰の懸濁流が
100層の砂岩(厚さ7.5m)をわずか
3時間で堆積させました!!

①1980年5月

齊一説(21頁)に基づく砂岩の
形成メカニズムが覆された
のです。

覆された砂岩の形成メカニズム

従来は**齊一説**に基づいて

砂岩は、水中で土砂がゆっくりと**数万年**で**1m程度**の速度で堆積して作られ、

砂のサイズが**環境の変動**によって変わるために層状に成長する。

と考えられていましたが、



セントヘレンズ山麓のリトル・グランドキャニオンで

火山灰の懸濁流が、**細かい砂**の層と**荒い砂**の層が交互に重なる**7.5m**の砂岩をわずか**3時間**で形成した

ことが目撃されたので、地質学者は

激変説に基づいて

火山灰の**懸濁流**が層状の砂岩を急激に形成する

と考えるようになつたのです。

さらに、

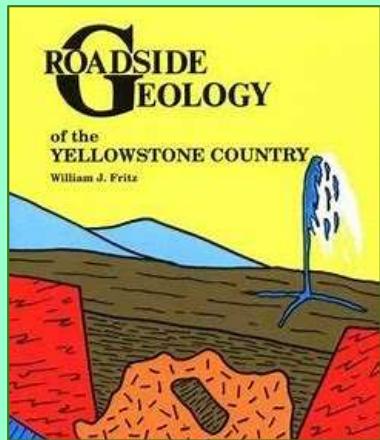


層状の砂岩が懸濁流によって急速に形成されることが**実験**で示され**理論**で裏付けられています。

実験結果



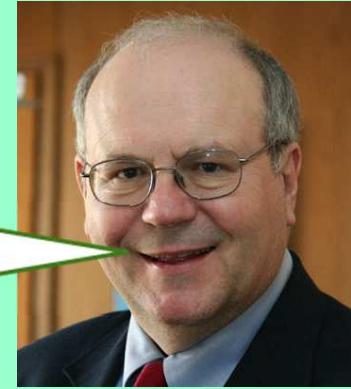
セントヘレンズ山と化石の森(イエローストーン)



化石の森の研究者W.J. フリツ教授が自著で次のように述べています。

私が噴火直後にセントヘレンズ山の周辺を訪れたとき、それはまるでイエローストーンのようでした！泥流も木々の様子もそっくりでした。

『イエローストーン地域の地質学探訪』、第6版(1994年) 25頁



W.J. フリツ
ジョージア大学
地質学教授



1980年5月に、セントヘレンズ山の最初の噴火で山から流れ落ちた大量の瓦礫が山麓のスピリット湖に激突し、
◆高さ250メートル!!の大津波が岸に押し寄せました。

<https://volcano.oregonstate.edu/mt-st-helens>



- ◆数千本の木々が湖に流れ込み、巨大な「丸太のいかだ」ができ、
- ◆根が切断された多数の木が今も湖底で垂直に沈んでいます。

<https://www.grisda.org/origins-10009>

化石の森の樹木もこのような激流で運ばれてきたと考えられているのです。

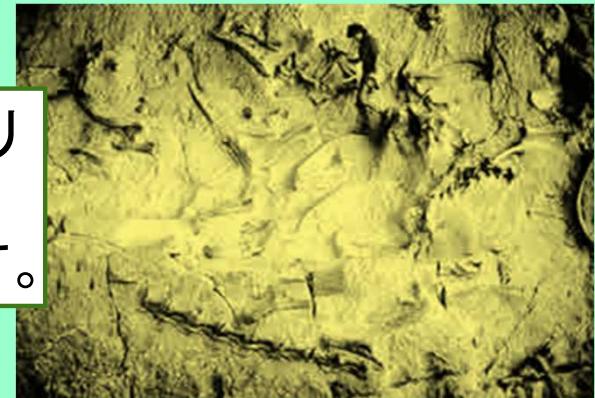
恐竜の墓場

米国ユタ州の恐竜国定公園で**恐竜の墓場**と呼ばれる化石の発掘現場では、



多数の恐竜、貝類、カタツムリの死骸、および丸太と木片の化石が砂岩に埋まっています。

講師撮影1985年



◆恐竜の死骸が他の様々な生物の死骸と共に急速に**運搬**され、懸濁流が堆積させた**砂岩**に埋没して**化石化**した。

と考えられることを示す6つの証拠を創造科学者が示しています。

<https://www.icr.org/article/dinosaur-national-monument-park-or-jurassic-jumble>

総まとめ

進化論では、

内実(その1)

目的なく無秩序に動く原子・分子には、目的を持つて活動する生命を生み出す力が秘められていることを**作業仮説**として導入しているが、「生命」と「生物の種」の起源を説明できない、

内実(その2)

恐竜化石の中でタンパク質とDNAが6千万年以上と想定されている長期間保存されたメカニズムを説明できない、

内実(その3)

百万年以前と想定されている化石で消滅したはずの放射性炭素が検出されている矛盾を説明できない

内実(その4)

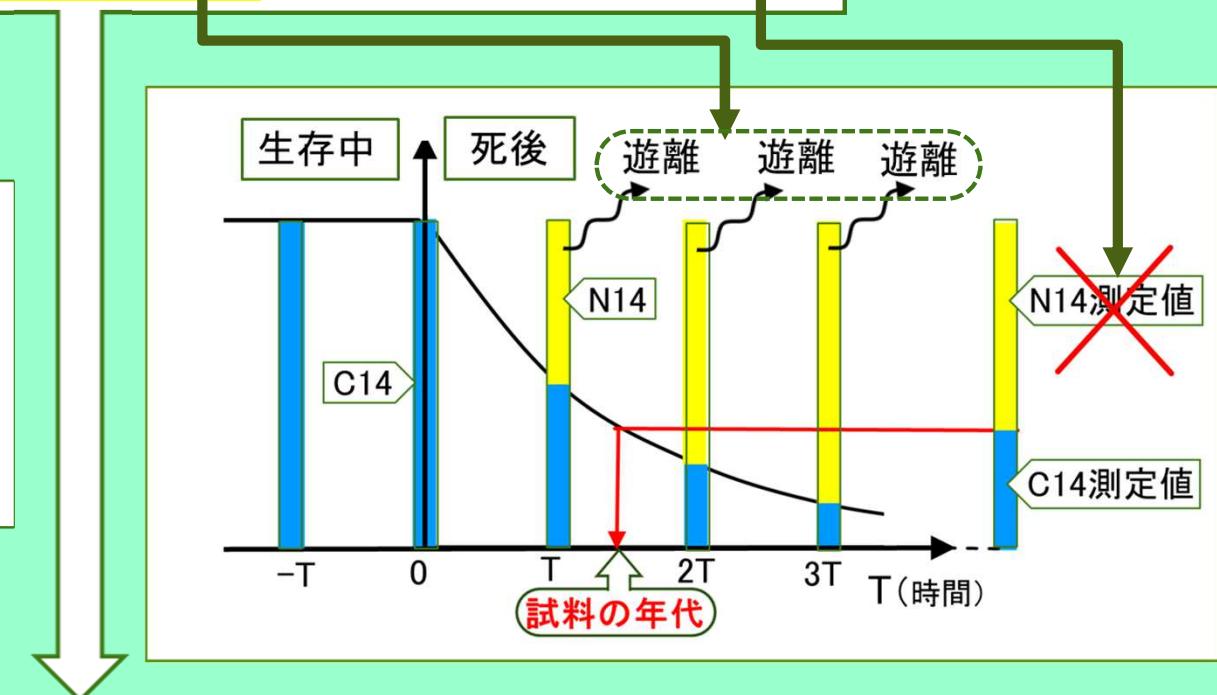
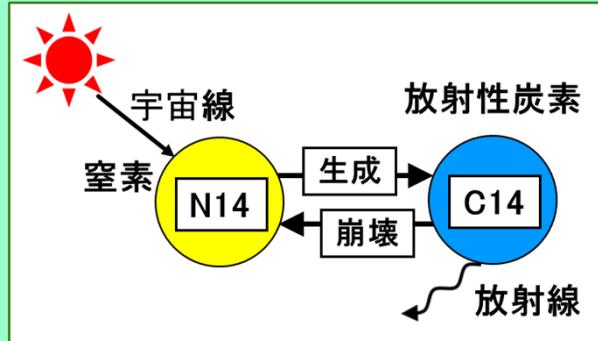
斎一説に立つ進化論的・地質学では地層と化石の形成メカニズムを説明できないのです。

【補足3】C14年代の「ノアの洪水による激変モデル」

測定された2~5万年のC14年代を若い地球説で想定されている約6千年以内に収めるために創造科学者が提起している激変モデル(16頁)を説明します。

- ◆11頁に示したように、化石中のC14とN14の濃度を測定し両者の割合からC14の減衰率を計算すれば、
- ◆生物が死んだ年代(化石の年代)を決められるはずです。

ところが **N14は体外に遊離するので測定できない** のです。



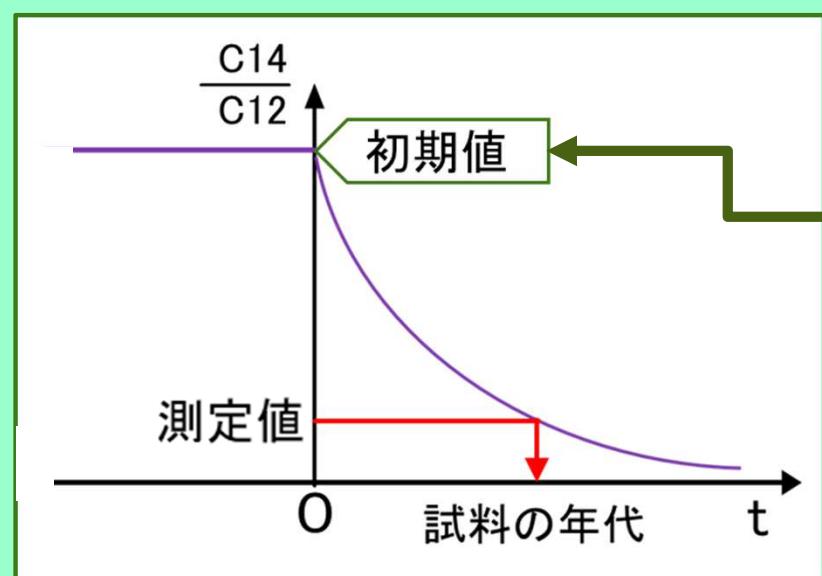
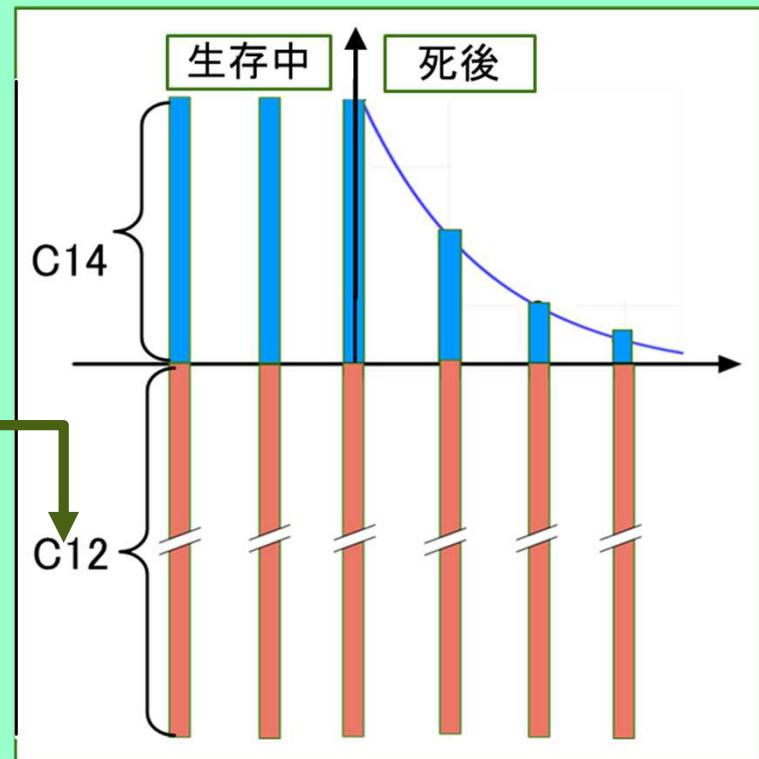
それゆえ化石試料の年代を決定できません。

そこで、実際のC14年代測定では

- ◆大気中には、崩壊しない**安定な炭素C12**が一定濃度で存在しているので、
- ◆生物の体内には(生存中も死後も)C12が大気中と同じ**一定濃度**で存在している

ことを利用して、

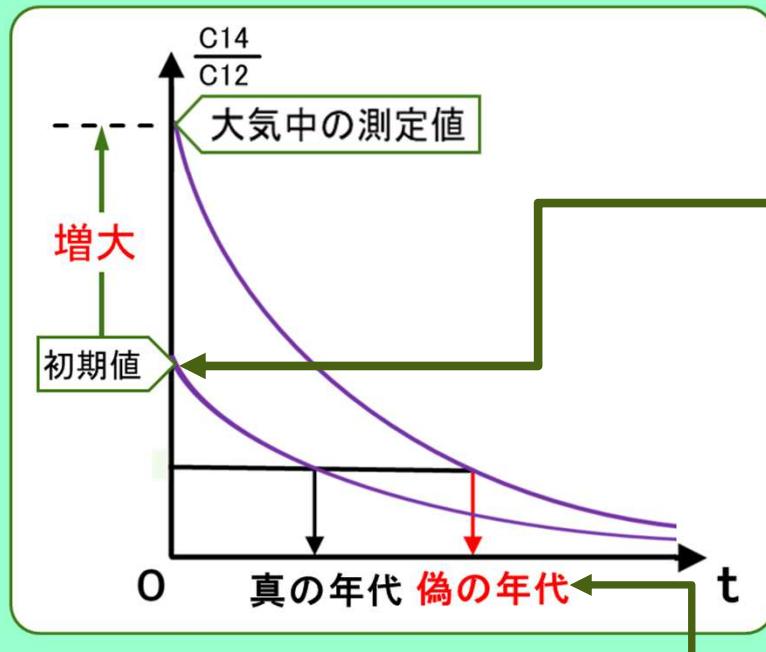
化石中のC14とC12を測定し、C14の濃度をC12の濃度(一定値)で割った**C14/C12**の減衰率から試料の年代を決定します。



ただし

- ◆C14/C12の初期値(生物が死んで化石化し始めた時の値)が不明なので
- ◆**齊一説** †に基づいてC14/C12の**現在の大気中の測定値**で代用します。

† 自然界で起きるメカニズムは今も昔も変わらないとする**作業仮説**です(21頁)。



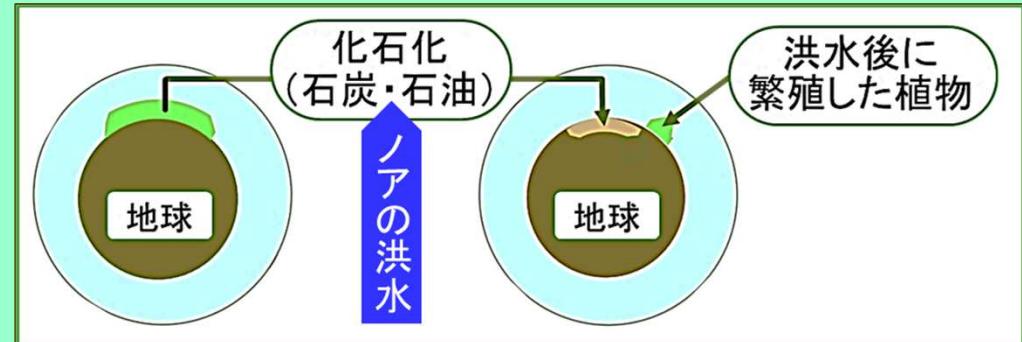
このような実情を踏まえて創造科学者は

- ◆ C14年代の測定ではC14/C12の初期値を現在の大気中の測定値で代用しているが、実際には、
- ◆ ノアの洪水の大激変で大気中のC14/C12が増大したために
- ◆ 偽りの長い年代が得られている

と主張しています。

そしてC14/C12が増大し偽りの年代が得られる理由を次のように説明しています。

ノアの洪水の激変で大部分の生物が化石となり生体中のC12が地中に埋没したために大気中のC12が減小した。



$$\frac{\text{C14(一定)}}{\text{C12(減少)}}$$

一方、大気中の窒素から宇宙線によって生成されるC14は一定に保たれている

C14/C12が増大

偽りの長い年代

<https://www.icr.org/rate2>
(Chapter 8, Page 616)

【補足4】地球と岩石の放射年代—等時線法の問題点

C14以外の放射性元素を用いる年代測定では、

U238、K40、Re187、Sm147などの
放射性元素(半減期 \approx 10~1000億年)を用いて

地球誕生の年代を隕石で、C14測定の限界(約9万年)を超えた生物化石の年代を化石のそばの岩石で測定します。

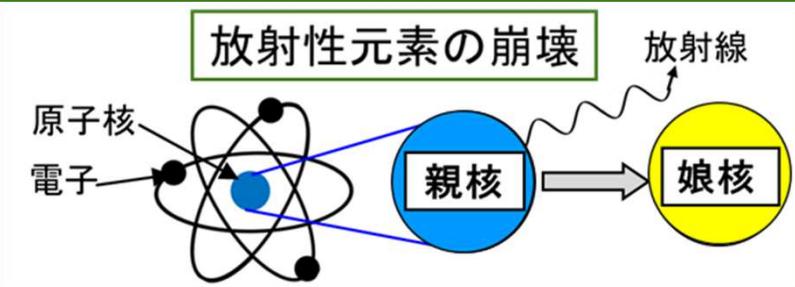


なぜなら

地球の誕生時に形成されたと考えられる岩石が存在せず

生物の化石には上記の放射性元素が含まれていないからです。

- ◆放射性元素では、原子の中心にある原子核が不安定なため崩壊します。
- ◆崩壊する前の原子核を親核、崩壊した後の原子核を娘核と呼びます†。

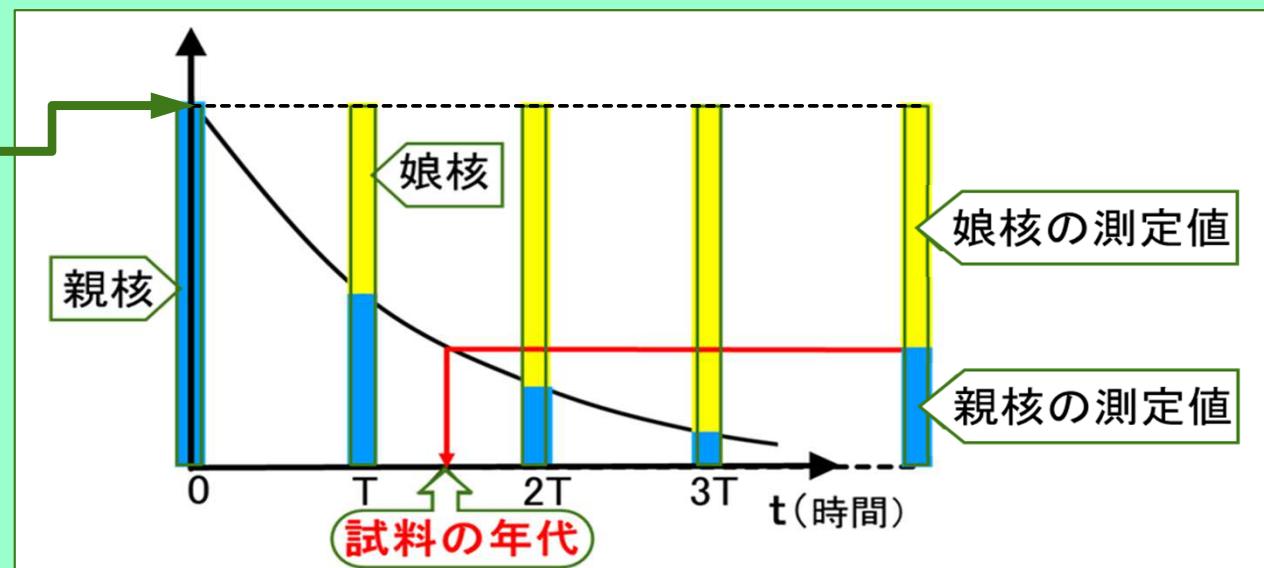


† 放射性炭素ではC14が親核、N14が娘核です。

隕石を含め岩石の放射年代測定では、試料に含まれる親核と娘核の量を測定し、両者の割合から親核の減衰率を求めて試料の年代を決めます。

ただし、この方法が有効なのは、娘核の初期値（岩石が誕生した時の値）をゼロと仮定できる場合に限ります。

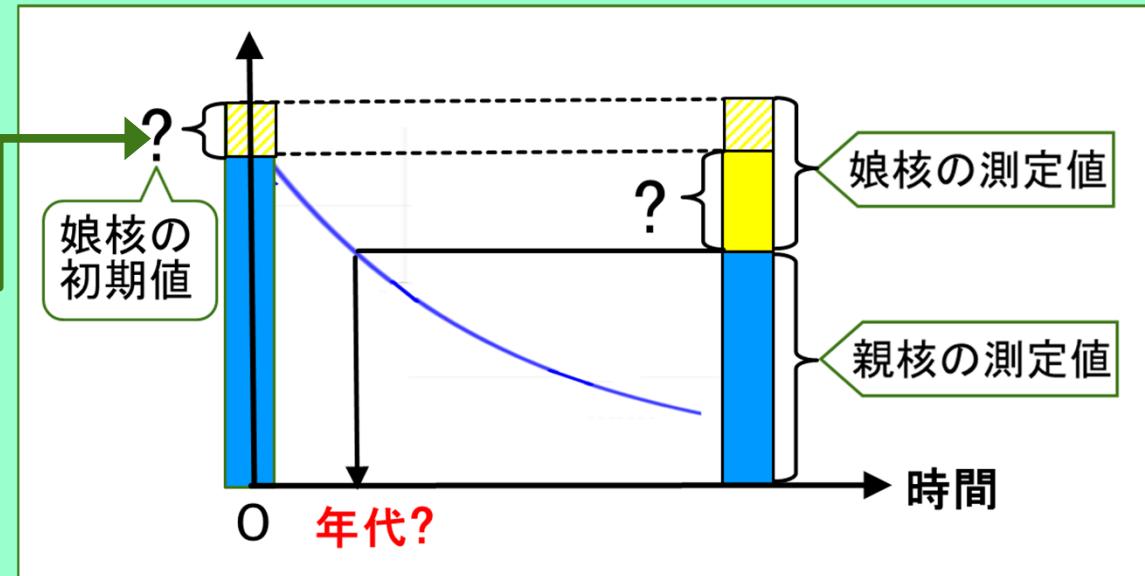
ところが実際の岩石では初期状態で娘核が存在しており、その値が不明です。



したがって試料の年代を決定できません。

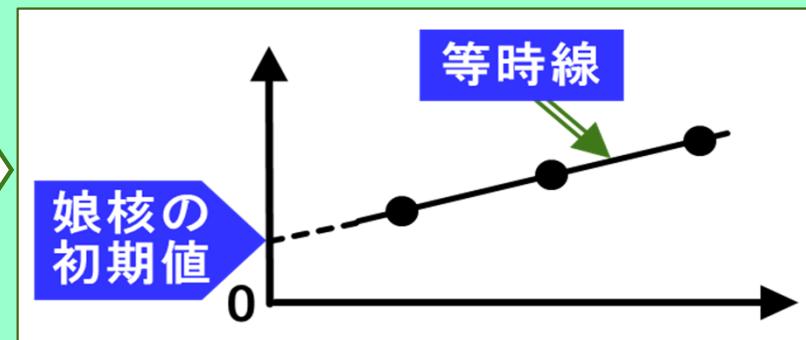
つまり、試料中の親核と娘核の量を測定しても

- ◆娘核の初期値が不明のため
- ◆崩壊で生じた娘核の量がわからないので、
- ◆試料の年代を決定できません。



そこで、娘核の初期値を推定するために等時線法（アイソクロン法）が用いられています。

【注1】
42頁



しかし 等時線法には、

- ◆偽等時線が存在するため偽りの年代が得られる可能性があることが、まず進化論に立つ地質学者によって示され、その後、創造科学者によって検証されています（次頁）。

等時線法に関するRATEプロジェクトの野外研究



ナウルホエ山(ニュージーランド)



ベトウース山(ワイオミング州)

20世紀の中頃に溶岩
が固化してできた岩石
に等時線法を適用したところ

27万年～31億年の
誤った年代が得られ、

偽等時線†によること
を明らかにしました。

†異なる溶岩流に由来する岩石
が混合して生じたのです。

https://www.icr.org/i/pdf/research/ICCMt_Ngauruhoe-AAS.pdf

5.4億年以前にマグマから
形成されたとされている岩石
に等時線法を適用したところ、

異なる放射性元素を用いると
異なる年代が得られ、

放射性元素の崩壊速度が
過去に変動した†ためである
と論じています。

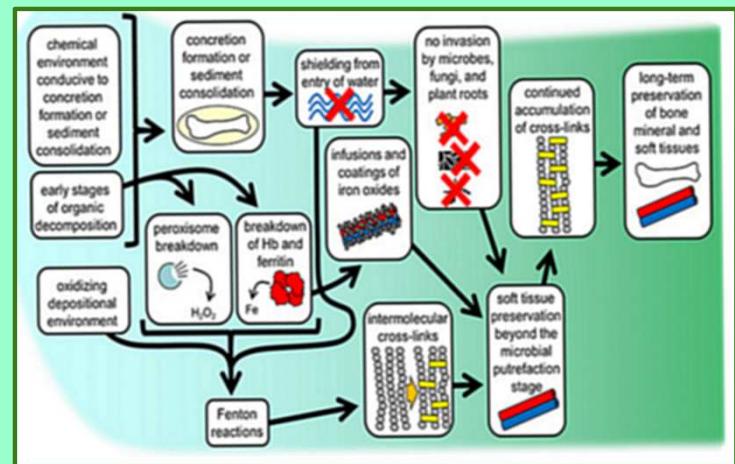
†【注2】43頁参照

<https://www.icr.org/rate2/Chapter%205,%20Page%20325>

【Q&A1】恐竜化石の軟組織に関する 古生物学者の見解

現在、進化論に立つ古生物学者は、どのようなメカニズムによって恐竜化石の軟組織が6000万年以上も保存されたと考えているのですか？

米国の古生物学会が支援しているオープンアクセス学術誌に掲載されている解説論文『恐竜化石中の軟組織』では、



動物の死後、軟組織の分解要因と保存要因が複雑に入り組んでいることを示しています。

そして、これらを組み合わせた**仮想的シナリオ**を四つ例示し、

これら以外にも、様々なシナリオを描くことが可能と主張しています。

つまり進化論に立つ古生物学者は

**仮説を提示できず、
仮想的シナリオを例示している**のが現状です。

<https://palaeo-electronica.org/content/2022/3739-soft-tissues-in-fossil-bone#:~:text=The%20three%20most%20commonly%20reported,of%20the%20three%2C%20or%20none.>

【Q & A2】恐竜化石のC14年代を黙殺する理由

なぜ進化学者は恐竜化石のC14年代を黙殺するのですか？

第1回のレポート3頁に記したように、**常識的な科学観**によれば、

科学理論は、

- ◆客観的な観測データと合理的な理論だけに基づくので、
- ◆それが予測する結果に反する観測データが得られれば捨てられる。それゆえ科学は特別に信頼できる。

と考えられています。

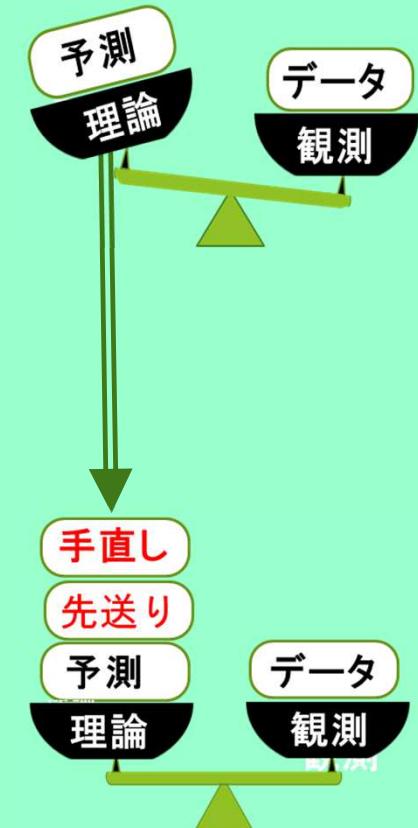
ところが、**刷新された科学観**によれば、

- ◆科学理論は根底で**世界観**に立脚しているので、
- ◆データで反証されても、パラダイムの世界観の枠内で手直しされるか、反証事例が先送り(黙殺)されて理論は生き延びる。

このため**科学理論はデータで反証されても倒れません。**

したがって

恐竜化石で消滅したはずのC14が観測されても恐竜化石の年代が疑われることなく、その観測データが黙殺されるのです。



進化論に反するC14年代は退けられる

2012年に、ドイツとフランスの創造科学者(カトリック)の研究グループが、シンガポールで開かれた地球科学に関する国際会議で、

8種類の恐竜の骨化石で
2.2–3.9万年のC14年代を得た

と発表しました。



後日、会議のプログラム委員が、この発表の概要を、発表者に知らせずに会議の公式サイトから削除しました。

発表者から理由を問い合わせられたプログラム委員は

「恐竜化石のC14年代を5万年以下としている測定結果は誤っているため」

とだけ回答しました。

進化論パラダイムを
反証するデータは黙殺されるのです。

創造科学者からの測定依頼を拒否する研究機関

- ◆この研究グループは、C14年代測定を米国のジョージア大学の研究所に依頼していましたが、
- ◆進化論を反証するデータの発表後後、同研究所はこの研究グループに対して

あなた達は、**地球の年代と進化論が正しいか**
否かを判断するために行っているので、今後は
測定を依頼されても拒否する。

と通達しました。

進化論パラダイムに固執する研究者は、
パラダイムの前提に反する研究の結果だけではなく、
研究すること自体を退ける

のです。

<https://www.newgeology.us/presentation48.html>

【Q&A3】木の化石の急速形成

木の化石が急速に形成されたことを示す実例がありますか？



© Rhonda Albom

オーストラリアのケープ・ルーウィンの水車小屋が放置されてから**65年**で化石化され石で覆われました。

<https://creation.com/petrified-waterwheel>

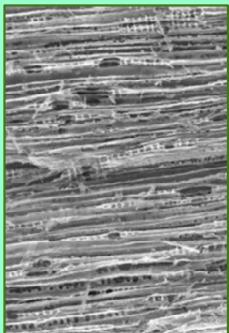
流水に溶解している鉱物質の作用で一種のコンクリーション(19頁)が形成されたのです。



1630年にベネチアのサンタ・マリア・デッラ・サルーテ聖堂が建てられた時に埋められた18万本の木の杭が**化石化**して現在も聖堂を支えています。

<https://answersingenesis.org/fossils/how-are-fossils-formed/instant-petrified-wood/>

数年で化石化したと考えられています。



研究者が、自然界で数百万年かかったと想定されている化石化のメカニズムを実験室で模倣し、**数週間**で木材を珪化木に変えています。

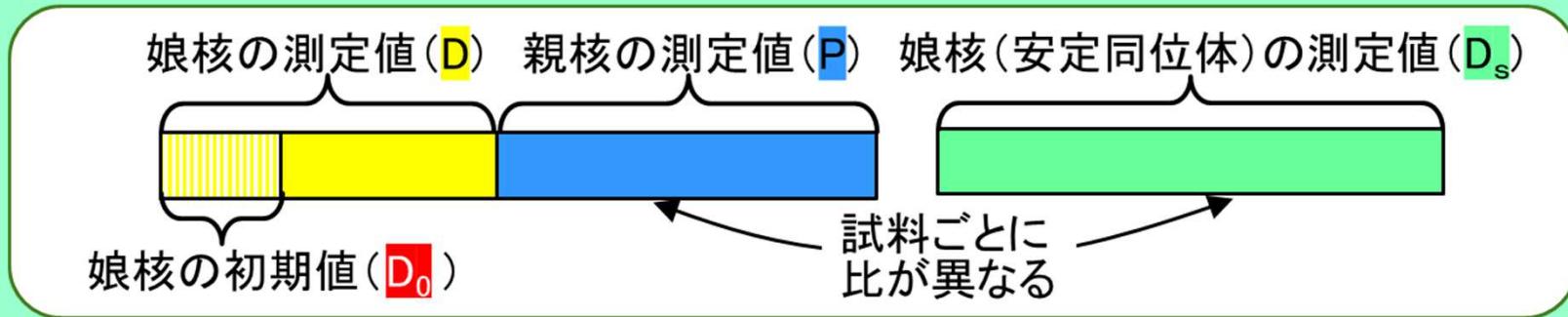
https://www.researchgate.net/publication/229816794_Synthesis_of_SiC_Ceramics_by_the_Carbothermal_Reaction_of_Mineralized_Wood_with_Silica

火山灰を含む懸濁液中で樹木は**数年**で化石化すると考えられています。

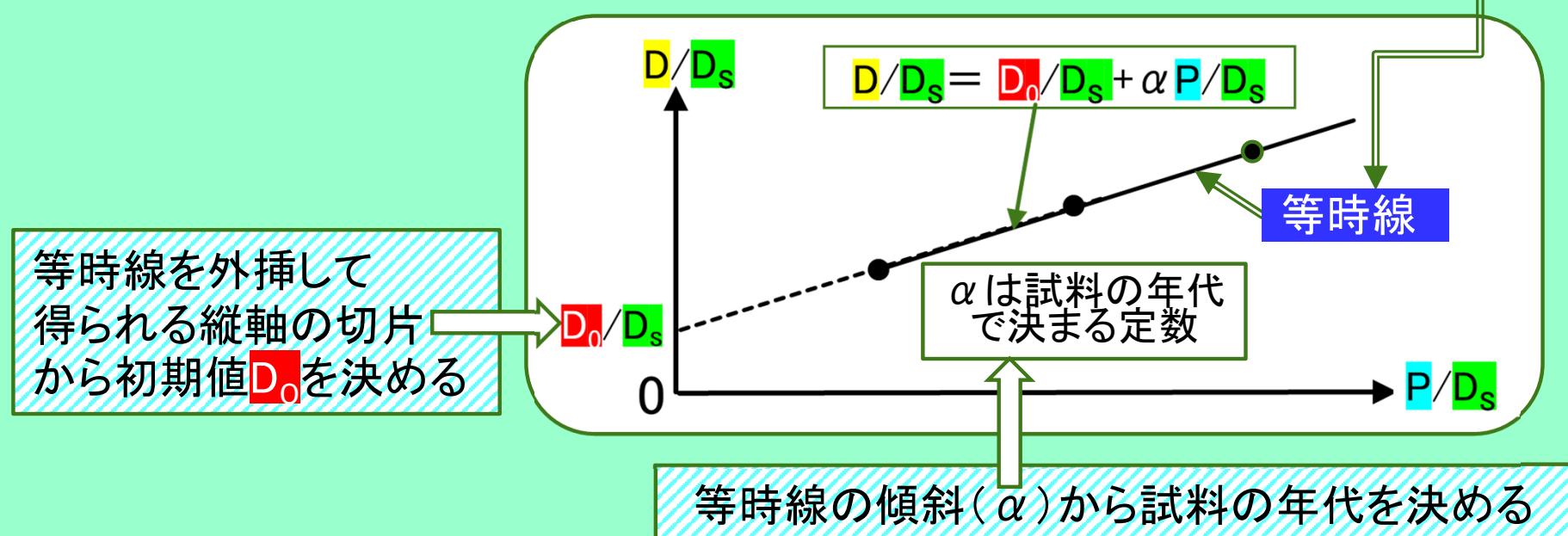


【注1】等時線法(アイソクロン法)の原理

年代が同じでも、親核(**P**)と娘核の安定同位体(**D_s**)の測定値の比が異なる試料



を複数個集めて、 D/D_s を P/D_s を横軸としてプロットすると直線(等時線)が得られるので、次のように娘核の初期値と試料の年代を決めています。



【注2】放射性元素の崩壊速度は変わる

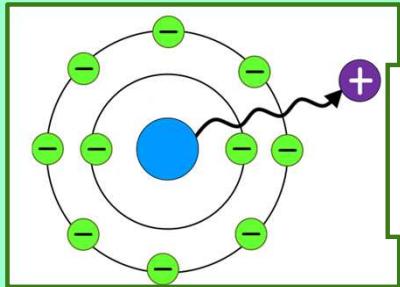
20世紀末に物理学者が、

放射性元素の崩壊速度が、特定の状況下で
10億倍も加速されること

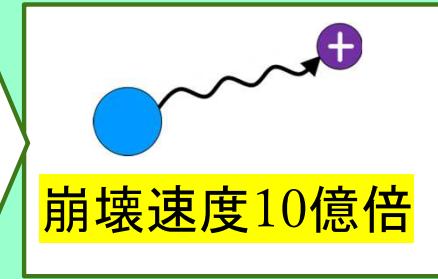
を理論および実験で明らかにしています。

<https://journals.aps.org/prc/abstract/10.1103/PhysRevC.36.1522>

<https://journals.aps.org/prl/abstract/10.1103/PhysRevLett.77.5190>



原子核状態では核外電子の影響を受けないので、陽電荷粒子を放出して崩壊する確率が原子状態より高い



このような研究報告を踏まえて、創造科学者はRATEプロジェクトで、

- ◆創造主が、ウランなどの放射性元素が生物に致命的な損傷を与えないようにするために、
- ◆創造のときに放射性元素をまず原子核状態で造り、現在観測されている崩壊速度よりはるかに高い速度で崩壊させた

と推察し、モデルを立てて理論的な考察をしています。

<https://creation.com/billion-fold-acceleration-of-radioactivity-demonstrated-in-laboratory-journal-of-creation-tj>